



発行人 黒柳博仁 編集担当 小枝崇徳
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局
 〒786-0531 高知県高岡郡四万十町小野958 願成寺内
 TEL. 0880-28-5402
 Email : sotozen.intl@gmail.com
 URL : http://www.soto-zen.net/
 郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

2026年
Vol.63

特集 第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会
 特集 両大本山ワークショップ・講演会「曹洞宗国際布教の歴史と海外寺院の活動」



第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会 於：曹洞宗両大本山布哇別院正法寺 2025年10月22日～28日

巻頭

ご挨拶

ハワイ国際布教総監部 国際布教総監 駒形宗二



アロハ、駒形宗二と申します。師匠であり父である故駒形宗彦前国際布教総監の遷化に伴い、2024年に第8代ハワイ国際布教総監に就任いたしました。この職に就いたことにより、世界に広がる曹洞宗サンガが多くの先人たちの献身的な活動によって、いかに大きく、そして深く形成されたかを痛感しました。その先人たちの中には、現在もS Z Iの会員として活躍されています。

その思いを引き継ぎ、2025年10月23日から26日の日程で、ホノルルにある曹洞宗両大本山布哇別院正法寺で開催しました第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会についてご報告させていただきます。この大会は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延による長期にわたる混乱後の最初の大会で

あり、北アメリカとハワイの多様な曹洞宗コミュニティを再び結びつける重要な機会となりました。

■ 様々なコミュニティが集う大会

この大会を企画した主な目的は、現在アメリカにおける曹洞宗の2つの代表的なグループが一緒に有意義な時間を過ごすことでした。

- 1つ目のグループは、伝統的な日系寺院の檀信徒で、その多くは何世代にもわたる家族で、そのルーツは日本人移民の歴史と繋がっており、法事やお盆など先祖供養を大事にしています。
- 2つ目のグループは、坐禅を中心とする「禅センター」と呼ばれるコミュニティで、坐禅会や仏教勉強会、お授戒、得度式などを熱心に修行しています。

これらのコミュニティはそれぞれが発展していますが、お互いと一緒に話したり、学び合ったりする機会が今まであまりなかったような気がしていました。そこで、二つのグループが集う大会を開催することによって相互理解を深め、そしてアメリカにおける曹洞宗の日系寺院と禅センターの繋がりを強化するのに役立つのではないかと思います、開催することにしました。

また、今回の大会は日本やイタリアからも多くの参加者があり、これまでの大会とは違い、さらに幅広く深いものになったと思います。そして、日本からの参加者の中にはSZIの方々もおり、大変うれしく心より感謝を申し上げます。

■ 選択と多様性に基づく大会

この目的を達成するために、2日間で約30の様々なセッションを計画し、参加者が自分で好きなクラスを選択できるようにしました。

参加者全員が決められたセッションに出席するのではなく、それぞれが学びたい事や体験したい事を選択できる形式にしました。

以下のようなセッションがありました：

- 仏法にまつわる講義
- 社会問題に関するディスカッション
- 実践的なワークショップ
- 坐禅セッション
- 梅花流詠讃歌、法要儀式の講習
- 精進料理教室
- 文化を体験する(太鼓やハワイ流盆踊りなど)

この形式は非常に効果的でした。参加者の中には学習や講義のクラスを希望する方がいれば、実践的な体験や儀式、文化芸術を希望する方もおられました。多くの方々がこれまで出会ったことのない曹洞宗の一面を体験する機会となったことに感激していました。多様な選択肢があったため、長年お寺に来ているメンバーさん、また最近曹洞宗に興味を持たれた方でも、誰もが大会を楽しむことができ、有意義な時間を過ごし、自分と曹洞宗との繋がりを確認することができたようです。

■ ハワイの良い部分をより広いコミュニティと共有する

ハワイ総監部の大きな目標だったのが地元の人々の知識と経験を紹介することでした。ハワイの寺院には長い歴史があるため、幅広い専門知識や経歴を持つ献身的なメンバーや僧侶がいらっやいます。そこで、そのような方々を含め、アメリカ本土、また日本からの僧侶に本大会のセッションの講師を務めていただきました。大会参加者から多くのコメントをいただいた中で、地元の講師からいろいろ学び、100年以上続くハワイの曹洞宗の歴史、様々な行事や取り組みを知り、理解が深まったと言って下さいました。

参加者には檀信徒大会はもちろん、ハワイで過ごした時間を純粋に楽しんで頂きたいと思いました。そのため、オ



アフ島内寺院ツアーにおいて、食事や法要を通してハワイの人々の温かさと開放感を実感してもらえるように努めました。

多くの参加者にとってこの大会は、新型コロナウイルスが収束して以来、久しぶりに開催された大規模な仏教イベントということもあり、参加者同士が再会し、喜んでいる場面が多くありました。

■ 今後の展望

私にとって、第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会は単なる集まりではなく、それ以上の意味がありました。この大会は世界の曹洞宗のコミュニティが、これからどのように発展し続けることができるかを垣間見る機会でもありました。曹洞宗寺院の檀信徒、禅センターのメンバー、僧侶や在家リーダーが集まり力を合わせることで、より豊かで統一された曹洞宗コミュニティが形成されていくと感じています。

最後になりますが、SZIの皆様には、日本に帰国された元開教師や国際布教師とを繋げて下さったり、また現在海外で活動をしている国際布教師への支援を続けて下さり、心より感謝を申し上げます。かつて皆様が導き、築き上げたコミュニティは今も、その基盤をもとに成長し続け、更に創意工夫をしています。この大会はまさに多くの点で、その伝統や歴史を反映したものでした。

この度、会報へ寄稿する機会を与您にいただきありがとうございます。海外における曹洞宗の布教教化と、日本と海外のサンガとの繋がりを深めるために、引き続き共に活動していくことを楽しみにしています。



SOTO 禅インターナショナル主催 海外スタディツアー報告

第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会

S Z I 会計 伊 藤 祐 司 (高知県願成寺住職)

2025年10月22日から28日にかけて、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にある曹洞宗両大本山布哇別院正法寺を主会場として、「第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会」が4日間の日程で開催され、これに参加いたしました。

本会主催のツアーからは11名の僧侶や寺族が参加し、またアメリカ本土やイタリアの寺院や禅センターなどからも多くの方が参加されました。総勢200名を超える参加者が一堂に会し、大会は盛大に執り行われました。

大会初日は寺院ツアーとして、オアフ島内にある曹洞宗寺院を4ヶ寺拝登し、各寺院にて本尊上供をお勤めしました。その後、各寺院の国際布教師やメンバーの方々より歴史や活動についてご紹介いただきました。龍仙寺では、昼食のお弁当をいただき、メンバーの皆さまによる手作りのデザート、ハワイの果物やお菓子などがふるまわれ、心温まるおもてなしを受けました。途中、ハワイプランテーションビレッジに立ち寄り、様々な国から移民してきた人々の歴史を学ぶとともに、復元された住居や店舗、浴場などの展示物を見学しました。当時の暮らしぶりを肌で感じ、深く理解する貴重な機会となりました。

2日目は終日、正法寺や隣接する学校の建物を会場として、多彩なプログラムが実施されました。ハワイにおける曹洞宗の歴史や特筆すべき活動の紹介をはじめ、坐禅クラス、写経、『正法眼蔵』の講義、精進料理教室、太鼓クラス、ハワイ流盆踊り、念珠作りなど、約30のセッションが用意されました。参加者は事前に割り振られた4つのセッションに参加しました。午後のプログラム冒頭では、藏山

大頭教化部長により開講式が厳修されました。続いての「アロハ」と声高らかに始まったご挨拶により、会場は一変して和やかな空気に包まれました。

3日目も引き続き終日セッションが実施され、2日目と同様に参加者が4つのセッションに参加しました。この日の終わりには、正法寺階下の社交室にて親睦会が開催されました。お寺のメンバーの方々により奏でられるハワイアン音楽を聴きながら、軽食や飲み物をいただきながら談笑し、国境を越えた交流を深めました。

最終日となる4日目は、会場をハワイ日本文化センターに移し、閉講式と昼餐会が開催されました。会場入口では、ハワイ各寺院の寺族やメンバーの方々によって、参加者全員にハワイの首飾り「レイ」がかけられ、各席にはハワイのお菓子を詰めた小袋が用意されていました。最後まで「アロハ」の温かい心遣いを感じるおもてなしでした。閉講式では、駒形宗二ハワイ国際布教総監を導師に大般若祈禱が荘厳にお勤めされ、この機会にあわせて新調された600巻の大般若経典が、ハワイをはじめ北アメリカやイタリアからの僧侶によって転読されました。清興では、駒形総監が指導を続けるハワイの太鼓グループとイタリアの普伝寺の太鼓グループによる迫力のある演奏が披露され、多くの参加者が豪快でリズムカルな響きに魅了されていました。最後は参加者全員が会場いっぱいに広がり、セッションで学んだハワイ流盆踊りを共に踊り、盛況のうちに大会は閉幕となりました。

以下に、ツアー参加者2名よりご寄稿いただきました感想を掲載いたします。



SOTO禅インターナショナル主催 海外スタディツアー報告

第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会に参加して

しの だ ゆき こ
篠 田 幸 子 (愛知県名古屋市長松院寺族)

SZ I企画のスタディツアーのご案内をいただいた時、今から30数年前、1才の長男を連れて、家族3人でオアフ島アイエア大平寺に渡った日のことを、とても懐かしく思い出しました。私にとってアイエア大平寺での生活は、寺族としての原点とも言えるかもしれません。

と申しますのも、メンバー（檀信徒）の方々や毎日のようにお寺でお目にかかり、毎週日曜日のサンデースクールでオルガンを弾いて「パンダナ・ティサラナ」を歌ったり、般若心経や五観の偈を唱えたり、梅花講の皆さんと練習に励んだり、結婚して初めて寺族となった私にとって、まさにお寺の生活そのものでした。そんな思い出深いアイエア大平寺をはじめ、オアフ島内の曹洞宗寺院を巡拝できること、そして何より、この檀信徒大会を企画されたハワイ総監の駒形宗二老師に是非お会いしたいと思い、参加を決めました。駒形宗二総監が、故駒形宗彦前総監のご子息としてワヒアワ龍仙寺にいらした頃、お母様の故駒形フェイさんと共に力強くハワイ祭り太鼓を打つ姿は、今でもはっきりと私の心に残っています。

そんな大きな楽しみを胸に、住職と共にハワイへ向かいました。到着したハワイのその真っ青な空と海、さわやかな風は以前と変わりなく、私の気持ちをアツという間にあの頃へとタイムスリップさせました。今回の「曹洞宗ハワイ・北アメリカ檀信徒大会」では、期間中、さまざまな講義や体験型ワークショップが企画されていました。参加者は北アメリカ、ハワイ、日本のみならず、イタリアからも約20名おられたことが、とても印象的でした。キリスト教国に生まれ、出生と共に洗礼を受ける彼らが、なぜ仏教徒になったのか？ 疑問を抱いた私は、夕食会で隣の席に座られた元北アメリカ開教師でサンフランシスコ桑港寺に赴任されていた細川正善先生

にお尋ねしました。細川先生は「キリスト教は神との約束で成り立っているので束縛が多い。仏教は自分自身と向き合うものだから、心の自由がある。それを求めているのかな」とお答えくださいました。キリスト教との大きな違いに、私自身、とても驚きました。

オアフ島内の寺院を訪れた際にふるまわれた、メンバー手作りの朝食やお弁当、デザート珍しいフルーツ、日系の方々故郷日本を想って作られたお菓子の数々は、私達夫婦にとっては昔を思い出す懐かしいものばかりでした。大会最終日、ハワイ日本文化センターで行われた閉会式は、ハワイスタイルで進行されました。力強く打たれる太鼓と共に唱えられる大般若転読やご祈祷の後、ハワイアンミュージックの生演奏をBGMに、ピュッフェスタイルの昼食をいただきました。最後は皆で輪になって盆ダンスをし、大会は幕を閉じました。

駒形総監より「今回の大会では、アメリカ、日本、ヨーロッパから総勢200名程の参加者が集まりました。これから更に世界中に仏教の輪を広げていきたい」とのお話がありました。来年(2026年)10月頃、今度はハワイから日本へのツアーを企画されているとの事、禅を通じて国や文化を超えたつながりを育む大切さを学んだ、素晴らしい大会でした。

日系移民から始まったハワイ仏教は、時を経て多くの人々の心をつかみ、それが大きな力となって今度は日本の仏教のあり方に、きっと良い影響を与えるに違いないと思います。国境を越えた交流を通じ、仏教の素晴らしさ、禅の奥深さを改めて感じた今回のSZ I海外スタディツアーでした。今回一緒いただいた11名の皆様には、大変お世話になりました。

最後になりましたが、直前のお怪我で参加が叶わなかった黒柳博仁会長ご夫妻には、くれぐれもお身体を大事にされまして、次回必ずお目にかかれます事を、住職共々楽しみにしております。





SOTO 禅インターナショナル主催 海外スタディツアー報告

ハワイで生きる仏教

きく ち し もん
菊地志門 (宮城県気仙沼市満福寺副住職)



第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会に参加させていただきました。10月22日から28日の7日間の日程で、オアフ島の曹洞宗寺院ツアーをはじめ、日本人移民の歴史や文化、当時の生活を学ぶハワイ・プランテーションビレッジ、さらに檀信徒大会では、数多くのセッションが設けられ、自身の興味関心をより深く、学びにつなげることができました。

「ハワイにおける日系寺院」のセッションでは、ハワイにおける日本寺院建築の歴史と変遷を通じて、寺院が単なる宗教施設にとどまらず、地域社会に深く根ざしたコミュニティの拠点として機能してきたことを学びました。日本から移民として渡った人々が、限られた資材や異なる気候の中で、日本の伝統的な寺院建築の要素を取り入れつつ、現地の環境に適応させてきた過程は非常に印象的でした。屋根の形や建材の選定、礼拝空間の構成など、随所に創意工夫が凝らされており、それは単なる建築技術の問題ではなく、信仰と文化をいかに土地に根づかせるかという「生きた適応」の記録であると感じました。特に、寺院が地域社会の集会所や教育の場として活用されている点に、ハワイにおける仏教の柔軟性と包容力を感じました。

次のセッションは、「ダルマ・ケイキ・プログラム」です。このプログラムでは、子どもたちが仏教の教えに親しみながら学ぶための工夫が紹介されました。ゲームや工作、音楽などを通して、仏教的価値観を自然に身につけられるようにデザインされており、実際に参加者全員で身体を使って、歌をうたい楽しみました。「楽しみながら学ぶ」姿勢がとても心に残りました。講師は、「子どもたちに仏

教を“教える”のではなく、“感じてもらう”ことが大切」と語っていました。子どもたちが自分の心を観察し、他者への思いやりを育む場として、こうした教育が行われていることに大きな希望を感じ、家庭や地域と仏教が自然につながる姿は、日本でもとても参考になると思います。

「お念珠作り」のワークショップでは、参加者それぞれが自分の数珠を制作し、その一珠一珠に祈りと意識を込めていく過程を紹介していました。単なる手作業ではなく、心を整え、集中し、自分自身を見つめる行としての意義が強調されていたのが印象的でした。講師の言葉に、「数珠は祈りの道具であると同時に、自分自身との対話の象徴である」というものがあり、完成した数珠にはそれぞれの想いや物語が宿り、それを通じて参加者同士のつながりも生まれていたように思います。ものづくりを通じて仏教の精神を体感できるこのような取り組みは、非常に意義深いと感じました。

3つの講義を通じて感じたのは、「伝える仏教」から「生きる仏教」への実践だと思います。建築、教育、ものづくりという異なる角度から、いずれも人々の暮らしの中に仏教を根づかせようとする姿勢が一貫しており、その柔軟さと創造性に強く感銘を受けました。さらに、こうした取り組みは、異文化の中で仏教がどのように息づき、形を変えながらも本質を保ち続けているかを示しており、私自身の今後の寺院活動においても大きな指針となる学びとなりました。禅の言葉に「行住坐臥」とあるように、仏教は特別な場所や時間の中だけにあるのではなく、日々の営みそのものが修行であり、布教だと強く思います。ハワイで出会った人々の穏やかな笑顔や、自然と調和した生活の中に、まさにその教えの体現をみることができました。この気づきを胸に、地域と共に歩む「仏教」を模索していきたいと思っています。

特集 両大本山ワークショップ・講演会抄録

[2025年6月28日(土) 於 大本山總持寺 / 6月30日(月) 於 大本山永平寺]

曹洞宗国際布教の歴史と海外寺院の活動

講師 ^{なん ばら いっ き} 南原一貴 (SZI副会長、静岡県医王寺住職)

講師プロフィール

1969(昭和44)年静岡県生まれ。駒澤大学仏教学部卒。大本山永平寺での安居の後、1995(平成7)年6月から2017(平成29)年3月まで国際布教師としてアメリカへ赴任。サンフランシスコ・桑港寺国際布教師、曹洞宗国際センター主事などを勤め、曹洞宗の国際布教に携わる。

2017(平成29)年4月より曹洞宗総合研究センター常任研究員。専門は国際伝道史。静岡県三島市の医王寺住職。



みなさん、こんばんは。ただいまご紹介いただきました曹洞宗総合研究センターの南原一貴と申します。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。どうぞ足元を楽にさせていただければと思います。坐蒲を使ってお座りいただいて、少し時間が長いので楽な姿勢で聞いていただければと思います。

私は曹洞宗総合研究センター常任研究員を務めていますが、総合研究センターがどういうところか聞いたことない方もいらっしゃるかと思います。曹洞宗が直面している課題について、調査や研究をしてその成果を公表する、また、人材の養成をすることも、目的としています。曹洞宗に付属している研究機関、附置研究所になります。その中に教化研修部門がありまして、以前は教化研修所と言っておりましたけれども、現在は総合研究センター教化研修部門ということで布教教化に関する技術や、学術に関する技能を有する人を養成する人材養成の組織になります。そこで研究と研修生や研究生の指導に当たっています。自坊は静岡県の三島市というところになります。伊豆半島の付け根のところになりますけれども、今日はそこからやってきてまして、東海道新幹線、米原からそのまま回ってくる形になります。その寺の住職をしながら、新幹線で東京の宗務庁にあります総合研究センターへ通っています。

もう少し自己紹介させていただきますと、先ほどご紹介いただいた中で、アメリカに約22年ほどいたということですが、最初に行ったのが1995年でした。それから2年間、カリフォルニア州のオークランド市の好人庵禪堂というところにおりました。その後、オークランドからサンフランシスコ湾の反対側にあるサンフランシスコにある桑港寺という日系人の方々を中心としたお寺がありまして、そこで開教師、今は国際布教師と言っておりますけれども、日本でいうところの住職に当たる仕事を5年務めた後、曹洞宗の出先機関になりますが、以前は曹洞宗北アメリカ開教センターとっておりましたが、2002年に組織改編がありまして、曹洞宗国際センターとなり、そこで仕事をしておりました。

サンフランシスコがどのあたりかといいますと、東京から太平洋をずっと渡って行って、西海岸のここ(*地図を示す)になります。飛行機で行きが9時間ぐらい、帰りが11時間ぐらいかかります。緯度は仙台と同じぐらいと思っていただければと思います。

なぜここに行くことになったかという、さきほど出てきました好人庵禪堂、ここができたのが1994年なんです、その時に落慶法要が行われるということで、私が永平寺に安居していた時の先輩から、「アメリカで法要があるから手伝いに行かないか」と声をかけられました。その頃は師寮寺の手伝いをしているくらいで時間があって、「あ、いいですね」ということで、お手伝いに1か月ほど行きました。その時に、この開教師(現在は国際布教師)をされていた方から、「アメリカに来て勉

強しながら、少し来てみないか」というような感じで声をかけていただきました。先ほど申し上げたように当時は時間があって、その言葉に、「本当にいいですか?」というような感じで、じゃあ行ってみようかなと5年ぐらいのつもりで赴任したんですけども、それが段々伸びてしまっていて最終的には20年ぐらいになってしまいました。「いつ帰ってくるの」と日本に一時帰国するたびに言われてきて、「あと2-3年ですかね」というのがしばらく続いて、結局、そのような感じで22年ほどいることになってしまいました。

よく聞かれるのが、「アメリカへ行った時に英語は話せたんですか?」ということなんですけれども、どのくらいだったかといえば、買い物ができるぐらい、これが欲しいと言えるような感じでした。好人庵では、暁天坐禅、朝課、飯台の後に、午前中は近くにある成人学校に通って英語の勉強をしていました。そこで1年ほど勉強したんですけども、上達したかなって感じはありませんでした。生活してるうちに段々と慣れてきて、話せたり聞いたりできるようになったのですけれども、今でもちゃんと注意して聞いていないと、英語で何を言っているか、ほんとに雑音にしか聞こえないという感じです。

またよく聞かれるのが、「日本とアメリカとどっちが良いですか?」ということですが、どちらも良いとしかいいようがないと思っています。例えば、日本だと食べ物がおいしいとかありますし、アメリカの何が良いかという私がいたサンフランシスコは気候がとても穏やかというか、暑すぎず寒すぎずで、とても乾燥していて湿気がないところでした。過ごしやすいいところはとても良かったなと思っています。どちらも良いところがあるし、どちらも自分に合わないところがある、そういう感じでした。

これがサンフランシスコの街になりますけれども(*写真を示す)、大きさとしては、山手線の内側2つ分ぐらい、人口が約88万人で、アメリカでは13番目の大きさになります。その周辺地域まで含めると860万人ぐらいいるので、だいぶ大きい都市圏となります。カリフォルニア州になりますが、経済の中心地であり、西海岸の金融街になっておりまして、アメリカではニューヨークに次ぐ金融の中心地になっています。サンフランシスコから少し南の方に行きますとシリコンバレーと言われてるところがあり、AppleですとかGoogleとかMetaとか、そういうような会社がある地域に近いところにサンフランシスコがあります。先ほど言いましたが気候が一年通して気温差があまりないので比較的住みやすく、地中海性気候となります。このように見ていただくと急な坂道がたくさんあります。霧が夏でも出るので、夏でも長袖が必要だったり、霧が出ることで有名な街でもあったりします。あとは昔、刑務所だった島でアルカトラズ島というのがあります。ゴールデンゲートブリッジという、太平洋とサンフランシスコ湾が繋がっているところにある橋や、ケーブルカーが有名な街です。観光でも有名で風光明媚な街になっています。

では少し仏教のお話に移っていきたいと思います。皆さんはお経が日本語で書かれているお経の本を読んでいると思いますが、これが般若心経の英訳になります(*図を示す)。般若心経、ハートストラと書かれています、これが英訳されたものです。最近ではなくて以前から翻訳されていて、古いものと1960年代から翻訳されています。いくつかのバージョンがあるんですけども、これは曹洞宗から出ている『日課勤行聖典』というお経の本があるんですが、それをアメリカの仏教学者の人や、アメリカの禪の指導者の人たちが集まって、どういう訳がいいかとみんなで協議して決めてできたのがこの経本の英訳になっています。般若心経、参同契、宝鏡三昧とか普門品偈等の訳がされています。どんな感じで読んでいるかというのを動画があるので見ていただければと思います。(*動画視聴)

これは英訳されているものなんです、漢字をそのまま英語の単語に



当てはめているので英語で読んだほうが、意味が分かりやすいという日本の方もいらっしゃる。また何か機会があったら英語のお経を見ていただければと思います。

では海外の活動のことについてお話をしていきたいです。

お配りしていますこの資料は「曹洞宗国際布教の歴史と海外寺院の活動」というもので、基本的にはこちらのスライドで映しているものと同じものにはなりますけど、参考資料としてご覧いただければと思います。

まず、国際布教総監部というのがありまして、曹洞宗の出先機関と資料には書いてありますが、日本でいうところの宗務所と同じような役割をしている曹洞宗の海外の出先機関となります。日本の国でいうと、領事館とか大使館、そういうような役割も担っていると考えていただければと思います。僧侶の得度や伝法、瑞世に関することや、お寺の登録に関する業務などを行っています。また、その地域の僧侶を集めた会議や研修会の開催、現地と日本との架け橋の役割を担っています。

総監部はハワイ、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパの4か所にあります。ハワイはホノルル、北アメリカはロサンゼルス、南アメリカはサンパウロになりまして、そしてこの3か所は両大本山別院のお寺の中に置かれております。ヨーロッパに関しては、両大本山別院がないのでパリ市内に事務所を借りて、総監部の業務を行っています。こちらは会議や現職研修会の様子となります。また、あとでお話しますが、今、日本から派遣されている国際布教師よりも、現地の人の国際布教師の方が多い状況になっています。次に曹洞宗国際センターです。私が所属していたところになりますが、ここでは各地域の総監部と連携をして業務や、坐禅指導や講義、研修会の開催、教化資料の英語への翻訳、また国際センター報「法眼」というニュースレターを年に2回日本語と英語で発行するなど、主に布教教化に関することを行って、日本でいうところの管区教化センターのような組織だと思っていいただければと思います。

国際布教の歴史に入る前に、少しそれ以前の時代背景を見ておきたいです。明治維新以降に海外布教が始まるよりも前に、曹洞宗の僧侶の中から海外に留学する人がみられるようになりました。1900年に入っただけの頃から記録がありますが、1901年に山崎快英がイエール大学に留学して、また1903年には西有慧観がサンフランシスコに行っています。この生田見壽という人は当初は留学に行ったんですが、その後に稲作についての仕事をするようになって、今現在カリフォルニア州というお米が流通していますが、それを商業的に成功させるという象徴的なパイオニアになった、そういう僧侶もいらっしゃいます。この西有慧観がアメリカに渡った時の辞令が出ていますが、「北米合衆国在留邦人の慰問布教を命ず」ということで、留学で行っていましたが、現地にいる日本人の慰問という任務も背負っていたということが読み取れるかと思えます。こちらの『禅僧留学事始』という本ですが、この中に、大森禅戒禅師の記録が載っています。駒澤大学の教授もされていましたが、永平寺の70世にもなります。1904年から1905年にかけて留学されていた頃のこと載っており、アメリカ以外にもイギリスやドイツにも留学をされています。他には、中根環堂という鶴見大学の創立に貢献した人がいらっしゃいます。また、滑谷快天は北米へ留学している記録を見ることができます。

山崎快英ですが、『宗報』に載っているんですが、新潟県の光明寺の住職でした。「北米合衆国のイエール大学に入学を命ず」ということで、曹洞宗からの留学生として渡っていったことがわかりますが、同時に日蓮宗からも一緒にイエール大学に留学をしている人が日蓮宗関係の研究でわかっています。そのときに日蓮宗の留学生と一緒に積尊降誕会などをイエール大学で行っていたという記録も見ることができます。この時にこの山崎快英が師事していた人がジョージ・トランブル・ラッドという先生になるんですけど、この先生の碑が大本山總持寺にありまして、遺言で日本に分骨してほしいということがあって、總持寺の中にこのような碑が建てられました。1922年には、ラッド博士の未亡人が参加して納骨式が行われたという記録があったことを情報として共有したいです。

では国際布教の始まりについて触れていきます。曹洞宗の国際布教は、1903年にハワイと南アメリカから始まります。今年で122年になります。その後は北アメリカで今年103年、ヨーロッパは第二次世界大戦後の1967年で、今年58年になります。このように100年以上の歴史が各地域の国際布教があるわけですが、国際布教の歴史というのは、日本から海外に渡っていった人、いわゆる日系移民ということになりますけど、そのような移民の歴史と関係していると言えます。みなさんの知っている人とか、親戚とかの中で、日本から、例えばハワイとかアメリカとか南米とか、そういうところに移民に行ったという人はいらっしゃいますか？

【私の師僧が海外開教でハワイのワイパフ太陽寺に移り住んでいた時期がありました。】との声あり。

水野先生なんですね。ありがとうございます。

海外に移っていった方がたがいるわけですが、移民が多い都道府県はどこかというのを皆さんに聞いてみたいと思います。どこが一番多いと思いますか。では、ざっくりとですが、東日本の方だと思う人手を挙げてみてください。西日本の方だと思う人。西日本が多いですね。ありがとうございます。はい、では、見て参りますと、西日本になって、広島県が一番多いところになります。これは1885年に官約移民というハワイへの移民が始まった年から、1972年までにいわゆるパスポートが発給された数となっています。1972年まで約76万人の人が渡っていますけれども、これを見ていくと、一番多いのは広島ですね。約11万人いらっしゃいます。その後、沖縄が約9万人。熊本、山口、福岡、和歌山とで、東日本で多いのは福島の2万8千人くらいですね。西の方に多いというのがみとれるかと思えます。みなさん出身のところどうですか？みていただいて、これぐらいなのか、こんなにいるんだ、とあるかと思えます。一番多いのが広島県で一番少ないのが奈良県で1,445人と、だいぶ開きがありますけれども、このように日本全国から各地にわたっていた方がいるということを、少しご紹介させていただきました。そして、海外の状況、曹洞宗の状況はどのようになっているか、もう少し内容に触れる前にお話ししておきますと、所謂お寺と禅センターがあります。禅センターというと、現地の外国人の僧侶のかたが中心となって、坐禅を中心とした活動をしている所になります。ハワイには10カ寺、国際布教師、以前は開



教師といっていましたけれども、一定の教師資格があって、それで海外で活動しているそういう辞令を持って渡っている国際布教師が7人、在籍僧侶、総監部に僧籍がおかれている人、得度をして曹洞宗に正式に登録されている人は3人。メンバー、サポーターというのが日本語で言うと信者、信徒というふうに思っただけであればいいかと思えます。それが1,530人。北アメリカになると56の寺院・禅センターがあって、57人の国際布教師、在籍僧侶が241人、メンバー、サポーターが5,638人、南アメリカとなると、寺院・禅センターが16カ所、国際布教師15人、在籍僧侶92人、メンバー、サポーター7,800人。ヨーロッパになりますと寺院・禅センターは55カ所、国際布教師が53人。在籍僧侶441人。メンバー、サポーターが15,000人、あとその他の地域というのがオーストラリアですか、あとはスリランカ、そういうような地域にあるお寺や禅センターというのがこちらになっていまして、合計で寺院、禅センター141カ所、国際布教師は134人、在籍僧侶777人。メンバーサポーター、30,297人となっています。けれども、これはあくまでも曹洞宗に現在登録されている人たちということで、一旦は僧籍登録したものの現在は僧籍が切れてしまっている人が存在しています。あとはいろいろな事情で登録ができないという方もいらっしゃいます。そういう人も含めると、例えばお寺と禅センター、北アメリカが56カ所というのがありますけれど、以前調べた時ですが、大体300ぐらいはあるといわれています。南アメリカも公式には16カ所といわれていますが、以前の調査では100ぐらいはあるだろうというふうに言われていますので、これはあくまでも曹洞宗に現在登録されている数で、実際はこれよりも多くあると思っていただけだと思います。ちなみに、国際布教師141人いますけれども、男性が89人、約66%、女性が45人で34%というふうに、だいたい男性と女性の比率、男性が2、女性が1ぐらいの比率になっていて在籍僧侶も777人いますけれども、男性が528人、女性が249人ということで、こちらも大体2対1ぐらいが比率となっています。日本では1%満たないくらいですので、それからみますと海外は女性僧侶の比率は非常に多いと見て取ることができます。

それでは総監部は4つありますけれど、総監部での活動と歴史について簡単に触れていきたいと思えます。先ほど少し話しましたが、布教の歴史というのは、日本からの移民の歴史と結びついていて、1885年から官約移民、日本とハワイ王国との契約によって移民がハワイに渡ることになっていって、約8年間に3万人の契約労働者がハワイに渡っていきました。その中で、このようにサトウキビ畑で働くこと、もしくはサトウキビから砂糖へ精製する製糖工場働く、そういうようなことが主な仕事でしたが、非常に過酷な仕事で厳しい環境の中で生活をせざるを得ない状況でありました。そういう中で、移民からの要望ですとか、そういう状況を聞いて、日本の各宗派、曹洞宗だけではなくて、ほかの宗派も含めて、移民の心の支えになるために僧侶を派遣していくことになっていきました。曹洞宗からは1903年になりますけれども、広島県出身の河原仙英という人が最初に渡り、またその翌年に同じ広島県出身の菅良雲という人がハワイに渡っていきます。この河原師が、ワイパフの太陽寺を開きまして、首師はカウアイ島という島で禅宗寺を開いています。そのようにハワイでの布教の基礎を築いていきました。その後、磯部峰仙という人が1913年にハワイへ渡ることになります。ホノルルに仮別院を開きまして、1921年になりますけど、こちらの写真になりますけど、

大本山總持寺の新井石禅師をお迎えしまして、壮大な落慶法要が行なわれています。新井禅師はその後一ヶ月ほどハワイに滞在されて、各島を巡錫されて、それからアメリカ本土に渡って大統領と謁見したというようなことがされておりました。その後、磯部師ですけれど、この写真でいうところにいる人になります。この後にはアメリカのロサンゼルスに渡って、北米での布教に従事されることになります。その後は駒形善教という人が後任にあたって活動が行われました。

ですが、第二次世界大戦がおこってしまっていて、それまで日本語を教えていたとか、そのお寺で働いていた開教師、現在は国際布教師といいますが、僧侶の人達は強制収容所に拘束されてしまいます。そういうことからお寺での活動というのは中断せざるを得ないという状況となりました。これはニューメキシコ州にありましたサンタフェ収容所というところになりますが、曹洞宗だけではなくて、各宗の開教師が、そこに収容されていて、その時の各宗派開教師の集合写真で、この中に曹洞宗の方もいらっしゃいます。

戦争が終わりまして、開教師は再びハワイに戻って、お寺の復興をするともに、二世、三世といった、次の世代の人たちに向けた布教というのに取り組んでいくようになっていって、英語の經典の整備をし、英語による布教ができる布教師の育成というのが進められていきました。ハワイには現在9つのお寺がありますけれども、その中で中心となっているのがオアフ島にあります、両大本山布哇別院正法寺というお寺になります。これは1953年に建てられ、インド風の建築様式を取り入れて作られたお寺になっております。坐禅会ですとか、梅花流詠賛歌、書道、また太鼓の教室や編み物が行われていて地域に根差した活動が行われています。なぜインド式なのかというと、仏教はもともとインドから日本に渡ってそれからハワイに来ているということで、インド風の建物を建てようということによってこのようになっております。ハワイにはここだけではなくて、西本願寺の別院もこういうようなインド風の建築になっています。浄土宗の別院は壁がピンク色になって、とてもハワイらしい感じのお寺になっています。ほかには子供の教育にも力を入れていて、日本語学校を併設して、日本語とともに仏教ですとか、日本の文化というのを学ぶ場の提供をしていました。またハワイでは檀信徒と国際布教師によるハワイ寺院連盟というのがあったり、ハワイ連合婦人会というのがあります。そのような団体が布教を支える大きな力になったりしています。ほかには最近ですとアメリカ人僧侶による坐禅による布教活動というのに進んでおまして、禅が日系社会以外においても広がりを見せているともいえるので、こういう流れがハワイにおける曹洞宗の布教の多様性を象徴するものではないのかと思っております。

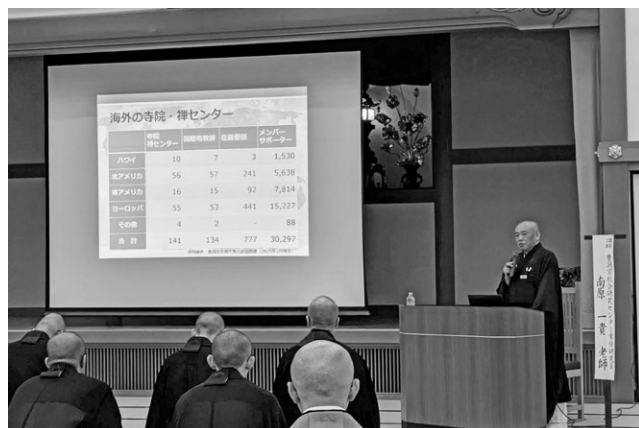
布教が始まった順番で話したいと思えますので次は南アメリカです。資料では2ページ目になります。南アメリカでの布教はペルーから始まっています。ペルーへの移民は1899年に最初の日本人の移民792人を乗せた佐倉丸という船がペルーへ渡りました。この移民船に乗った人たちはハワイと同じでサトウキビ畑の農園で働くために渡航しましたが、その生活というのは非常に過酷なものであったと伝えられています。マラリアやチフスといった風土病に冒されて、また最初のうちは宿舎も非常に粗悪な環境だったといわれています。到着してからわずか1年余りの間に140人の方が亡くなったという悲惨な状況でした。第2回目の移民船が4年後の1903年にペルーに渡っています。そのときに曹洞宗の僧侶が移民と一緒に派遣されています。兵庫県の上野泰庵という方になりますけれども、上野師は移民の支えとなるべく布教を行いまして、南米で一番古いといわれている仏教寺院である慈恩寺というお寺を建立しました。同時にその隣に日本人学校を併設して自らも教壇に立って、宗教と教育と両方の面から移民を支える、そういうような存在であったと言われていまして。現在はこの慈恩寺の近くに上野泰庵の名前が付けられました「上野泰庵小学校」がありまして、ここ生徒が、この人たちになりますけど、これが現在の慈恩寺になりますが、このように法要があるときには、地元の小学校の生徒達も来て法要に参加をしています。これが位牌堂と開山堂になりますが、ここに歴住の方々の写真が飾られています。この慈恩寺はペルーでは、日系移民の聖地というようにいられていて、たかさんの位牌が置かれていまして。以前に調査がされて位牌のリストが作られましたが、その後も位牌を納めるかたは多くいらっやっして、それをまた整理するために新しく棚を作って位牌を置けるように整えられたと聞いております。

次はブラジルについて少し触れておきたいと思います。ブラジルはペルーより少し後になりまして、1908年に日本からの移民が始まっています。その後ずっと続きまして、1993年まで移民が行われていました。それまでに約30万人がブラジルに渡っています。戦前の話になりますけれどもブラジルでは、カトリック以外の宗教の布教に対する制限があったため、仏教などの布教の活動というのが困難な時代がずっと続いておりました。また初期の移民は奴隷のような扱いをうけて本当に苦しい生活を強いられたというふうにいわれていますけれども、その後は共同で農地を取得したりして、開拓していくようになり、生活が安定していくと、故郷の仏教に目が向けられるようになっていたと伝えられています。これは開拓の様子です。どれだけ木の根が大きいかというのが分かるかと、ここに人が写っているのが、かなりの大きさです。このようなジャングルを開拓して行って、コーヒー畑などを作っていったそうです。

そして戦後の話になりますけれども、1952年にブラジルに住む曹洞宗の信徒の人たちが、ブラジルでの布教を強く願ひまして、高階禪師に来ていただきたいという要請が宗門にありました。それによって1955年に高階瓏仙禪師がブラジルに渡りまして約180か所で布教を行われました。禪師は帰国された後に「ブラジルの人々は一日も早く曹洞宗の開教師が来てくれることを願っている。2世、3世そして現地の人々にも開かれた布教が必要である」と述べられております。そのような願いに応える形で、毎年約4万キロにわたって巡回を行い、やがて信徒も3千人まで達したといわれています。その後、ブラジルのサンパウロになりますが、両大本山南米別院佛心寺、これは現在の建物になりますけれども、南アメリカでの布教の中心の役割を果たしています。佛心寺では葬儀や法事などももちろんのことですが結婚式ですとか梅花流詠賛歌、書道、生け花、そのような文化的な教室も行われ、また老人福祉施設への慰問など様々な活動が行われております。その後各地にもお寺ができて活動されていますけれども、2015年にはブラジルの隣にありますパラグアイに拓恩寺というお寺が建てられました。このお寺は宗派問わず多くの日系の人たちの協力によって建てられたパラグアイで最初の曹洞宗のお寺になります。現在のパラグアイの日系社会と強い絆を築きながら、坐禅や法要、また日本の文化活動も行われています。そして2014年からになりますけれども、「ラテンアメリカ禅の集い」という行事が行なわれています。これは南アメリカの各国が持ち回りで行われている行事ですが、坐禅体験、講演、書道、茶道などの日本文化の紹介を通じて、一般の人々に禅を体験してもらって交流を深める、そういうような活動が行われており、南米においても多様な活動が行われています。

次は北アメリカです。北アメリカで布教が始まったのは1922年になります。先ほど少し触れましたが、ハワイで活動していました磯部峰仙が、新井禪師の要請を受けて、アメリカ本土に渡られました。最初に向かったところがロサンゼルスです。そこで日本からの移民の長崎豊吉という人に出会います。その縁によって長崎氏の好意で住宅の2階を仮の本堂にし、禅宗寺仮教会という看板を掲げます。それが北アメリカでの布教の第一歩となりました。そして次第に信者も増えていき、この長崎氏の住居をすべて解放していただくことになり、徐々に形が整っていきました。しかしながら、1923年に今のお寺が建っている土地を取得することができたんですが、この年にあることが日本で起こっています。何だと思いませんか？ 1923年、大正12年ですけれども、関東大震災

が発生しました。禅宗寺では本堂を建設しようということで資金を集めておりましたけれども、その資金を急遽義捐金として日本に送るということになりました。そのために本堂の完成は少し遅れまして、1926年に落慶法要がおこなわれました。その後、磯部師は北カリフォルニアのサンフランシスコに移動します。これがサンフランシスコの桑港寺、昔の桑港寺の建物になりますが、日系の移民の人たちと協力をしまして、ユダヤ教の教会だった建物を買い取りまして、中を改装してお寺として活動をしました。桑港寺は1934年に開創されました。アメリカもハワイと同じような状況になりますけれども、第二次世界大戦が始まると、ハワイの場合は、その当時約4割が日本人・日系人だったということで、その人たちをすべて強制収容してしまうと、ハワイの社会が回らなくなってしまふということ、例えば日系人の有力な人ですとか、教師とか僧侶などそういう人たちが収容の対象となりましたが、アメリカ本土の場合は、アメリカの西海岸に住んでいるすべての日本人・日系人が強制収容所に隔離されるということになりました。その間、禅宗寺も桑港寺も同じようにすべて閉鎖されてしまいました。それでも収容所の中で仏教会というのが開かれまして、そこでお参りなどが行なわれ信仰活動が続けられたといわれています。これは収容所で撮っていた葬儀の様子になりますけれども、このように葬儀のときに集合写真を撮っていました。ハワイでもみられます。こういう写真を撮って葬儀が行われたというのを日本の親戚に送って、状況を伝えるためだったといわれています。これはそんなに長くないですが、長い紙に現像されている写真もあって、本当にたくさんの人に見送られて葬儀が行われたということ伝えるために、葬儀の集合写真が撮られていたと聞きおよんでいます。これが収容所の中で、これはマンザナーというカリフォルニア州にありました収容所の中で行われたお盆の時の盆踊りの様子の写真で、お盆の行事も収容所で行われていました。戦後、収容所から戻っていった人たちは、お寺が生活を再建していくための拠点となっていて、一時期、寝泊まりするために開放されて、そこから仏教の教えを広めていくという活動が行われていくようになりました。このよう日系寺院は葬儀や法事も行われておりますけれども、坐禅会などを通じて、日本人や日系人の拠り所であるといえます。このように日本人・日系人に関するお寺の話でしたが、この後、禅センターというのができていきます。1960年代となっていくと、アメリカ社会に大きな変化がおこって、いわゆる「カウンターカルチャー」の時代といわれていますけれども、若い人たちが、物質的な豊かさに疑問を持ったり、また精神的な自由を求めたりということで、禅に惹かれる人が出てきて、禅の教えですとか、また自然との調和、そして簡素な静かな生き方というものに強く惹かれたといわれています。そして、このような流れの中で、大きな役割を果たした日本人の開教師が3人いました。鈴木俊隆師、前角博雄師、そして片桐大忍師です。鈴木俊隆師は1959年にサンフランシスコに渡りまして、桑港寺の開教師を務めていました。桑港寺で坐禅会をやっておりますと、アメリカ人の若い人たちがやって来るようになって、そこから所謂禅センターが設立されました。それがこのサンフランシスコ禅センターの始まりになっています。そして前角博雄師はロサンゼルスに渡って禅宗寺の開教師を務めていて参禅指導をおこなっていました。そこでアメリカ人の若い人たちとロサンゼルス禅堂というのを開いて、後の禅センターオブロサンゼルスになりました。もう一人、片桐大忍師はロサンゼルス



やサンフランシスコで活動された後にアメリカ中西部のミネアポリスでミネソタ禪メディテーションセンターを開きました。サンフランシスコ、ロサンゼルス、ミネソタのこのような禪センターを基盤に、アメリカ各地に禪センターや禪グループというのが生まれていきました。

アメリカでの曹洞宗の展開の話をしませんが、アメリカで仏教徒といわれる人たちはどのぐらいの人がいるかと皆さんに聞いてみたいと思います。アメリカの仏教徒はどれぐらいの比率でいるか？①1.1パーセント ②2パーセント ③5パーセント ④29パーセント。アメリカでどれぐらいの人が仏教徒かというのを想像してみていただきたいと思います。①の1.1パーセントが仏教徒だと思う人。はい、13人、ありがとうございます。では②2パーセントだと思う人。③5パーセントだと思う人。はい。ありがとうございます。では④29パーセントだと思う人。はい、正解はですね1番の1.1パーセントです。思ったより少ない、多い、捉え方はそれぞれだと思います。これは最近の調査の結果ですが、2014年の調査では0.7パーセントなので、0.4パーセント増えているので増加傾向にあるといえます。数にすると、370万人くらいになります。ではこの2パーセントは何かという、カリフォルニア州全体での仏教徒の数になります。カリフォルニア州の人口は約3,400万人くらいだったと思うので、その2パーセントくらい。では5パーセントというのはハワイの仏教徒の割合になります。では29パーセントで何かと言いますと、アメリカの成人で特定の宗教に属していない人になります。アメリカではいわゆる無宗教とか、信仰している特定の宗教がないという人が多くなってきています。一番多いのはキリスト教で62パーセントくらいになって、内訳はプロテスタントが40パーセントでカトリックは19パーセントほどです。他の宗教でいいますとユダヤ教が1.7パーセントくらいです。仏教は先ほど申し上げたように、1.1パーセントです。キリスト教全体が一番多く、次が無宗教という状況になっています。

では、最後にヨーロッパについてみていきます。ヨーロッパは戦後からの活動になりまして、1967年に弟子丸泰仙師がシベリア鉄道でフランスのパリ中央駅に降り立ったことから始まっています。弟子丸師はパリの食料品店の倉庫を借りて坐禅会を始められました。当時のヨーロッパ社会としてはアメリカと同じような状況になりますけれど、科学や経済の発展に傾きながらも精神的な空白、そういうものを若い人たちが感じているような時代だったといわれています。そうした中で弟子丸師の坐禅の実践というのは、言葉ではなくて、行をもって語る姿として多くの若い人たちの惹きつけていったといわれています。弟子丸師の著書に次のような一文があります。「禪とは何かと問われて私は壇上で黙って座った。で、それが最も的確な答えだった。」このような姿勢がヨーロッパでの禪の広まりの大きな原動力になっていったのではないかと思います。その後ヨーロッパ禪協会という組織が設立されまして、教宣は拡大していきます。その後、弟子丸師はヨーロッパの開教総監に任命されてフランスのパリに総監部が置かれました。けれども1982年に弟子丸師が遷化されたことによって、総監部は一時閉鎖されることになりました。それでもヨーロッパの人たちは修行を続けまして、日本に渡って新しい師僧を見つけて研鑽を積んでいった人もいますし、自分の国で坐禅を続けたり、それぞれの道を進んでいくという状況がしばらく続いていきました。そして1997年になりますが、ヨーロッパの僧侶が宗務庁を訪れて、ヨーロッパの禪にはまだ日本から支援が必要だということを訴えました。これを受けて2002年にヨーロッパ国際布教総監部がイタリアのミラノに再設置されまして、その後フランスのパリに移転しました。2007年にはヨーロッパで40周年を記念した行事が行われ、シンポジウムが開催されました。この年には海外で初めてとなります宗立専門僧堂がフランスの禅道尼苑に設置されました。そして2017年になりますが、50周年を迎え「過去、現在、未来」をテーマにシンポジウムや慶讃法要が行われました。ヨーロッパはこれまで触れてきましたハワイ、北アメリカ、南アメリカと違って、布教の対象は日本人移民ではないというところで、現地の人たち、キリスト教文化の中で育ってきた人たちが自ら禪に出会って、修行し布教して広げていったところがある、これまでお話しした地域と大きく違う点にあります。このように、ヨーロッパ各国で坐禅を中心とした活動をしている禅道場や禪センターが、ヨーロッパの中でも広がっております。

ここまで各総監部や地域の簡単な歴史についてご紹介しましたが、海外の地ではどのような活動が行われているのかお話ししたいと思います。

まず、寺院を「日系寺院」と「禪センター」と便宜上大きく2つに分けることができます。日系寺院というのは先ほどから申し上げていますが、日本からの移民や、2世、3世、4世とか、日系の方がいわゆるメンバーの中心になっていて、日本のお寺のような活動、そしてまた日本文化などの活動を行っているところになります。禪センターは現地の人が中心となっていて、坐禅や法話、勉強会、絡子やお祭姿を縫う会などをおこなわれておこなわれています。

では、日系寺院がどのような活動しているのかということ、私が国際布教師を務めていましたサンフランシスコの桑港寺の話をしたと思います。1月は元旦に元朝祈禱を行って、初詣や元旦の祈禱、1年間のお寺の活動について話し合われる教団総会が開かれます。そこで1年間の行事計画や予算案について審議がされます。この教団、お寺というのが、日本のお寺と組織のあり方が違って、理事会があるんですが、理事をメンバーの中から選んで、その中から理事長が選ばれます。理事長が法人の代表となります。そして国際布教師は、宗教的な立場、役割を担うということになっています。細かくいえば、運営する人、宗教的なことを担う人と別れているのですが、一緒に協力してお寺を運営していくかたちになっています。2月になる節分の祈禱会や涅槃会、3月には婦人会という組織がありまして、総会を開き、またひな祭りの時期なのでお雛様を飾って昼食会が行われ、春のお彼岸の法要が勤められます。4月になりますと、釈尊降誕会、花祭りがあって、ほかにサンフランシスコのジャパントウン、日本町で桜祭りというお祭りが行われます。毎年4月に開催されるのですが、そこにブースを出してたこ焼きのようなものを作って売っているのですが、その売り上げをお寺の運営資金にするという活動もしています。5月にはメモリアルデーという戦没者慰霊祭が行われる日があります。サンフランシスコの郊外に日系人墓地があり、そこで仏教、神道、キリスト教それぞれの宗教の方が集まって慰霊祭を行っています。このお墓がサンフランシスコで一番最初に葬られた日本人といわれていますが、これは江戸幕府の軍艦の咸臨丸で渡ってきた水夫の三人が航海中に亡くなられて、サンフランシスコで埋葬されたのでした。艦長であった勝海舟の名前でお墓が建てられています。他にももう少しお墓のことについて話します。これはハワイにあります日本人墓地ですが、このように日本の墓と似たような形の竿石が立っている形になります。ここでみられるのが漢字とローマ字が入っていたり、出身地が書かれているということです。例えば広島県の何市何郡何村の出身、山口県のどこの出身のように書かれているのがハワイやアメリカにある墓地の一つの特徴になっています。これは国立太平洋記念墓地で、アメリカ軍に従事した人たちが埋葬されるお墓になります。いわゆる埋め込み型のプレート式のお墓となっています。軍に従事された方の配偶者の方も一緒に入れるということになっていて、その人が信仰していた宗教を見ることができます。これは法輪なので仏教徒だったということ、こちらは十字架なのでキリスト教徒だったということがわかります。名前とどの戦争に従事したかが彫られています。この方は100大隊、第442連隊戦闘団という、第二次世界大戦のヨーロッパ戦線に行かれた方というのがわかります。

話を桑港寺の行事に戻します。11月に七五三の祈禱が行われております。これは私の前の開教師だった方が、自分のお子さんが七五三の年齢になったときに、サンフランシスコには日本の神道系の宗教では金光



教があるんですが、どうせならお寺でやったらいいんじゃないかということで、桑港寺で七五三の祈祷を始められました。私も引き続きやっています、はじめのうちは1日に1回か2回やっていたのですが、だんだんと人が増えていって、七五三ですとお子さんだけでなく、両親やおじいちゃんとおばあちゃん、兄弟とか一大家族で5~6人となると本堂に入りきれなくなるので、多いときは1日5座の祈祷法要をお勤めする状況になったりしまして、桑港寺のなかでは大きな行事になっていきました。そして、12月には臘八攝心や成道会、年末の大掃除、餅つき、除夜の鐘などが行われます。餅つきですが、昔は臼がなかったので金たらいをコンクリートで固めて作ったものがあるのですが、戦前に作られたものがいまだに現役で使われています。日系のお寺の1年間の活動についてお話をしました。

次に禅センターについて触れておきたいと思います。これはグリーンガルチファーム・蒼龍寺といましてサンフランシスコの郊外にあります。サンフランシスコ禅センターは一つの組織で三か所に禅センターがありまして、その中の一つとして1972年に設立されました。坐禅堂ですが、ここはもともと馬小屋だったところを坐禅堂に改装して坐禅ができるようになっています。屋外には畑が三面あってそこで有機栽培の様々な野菜が作られています。この野菜の有機栽培を学びに来た人が坐禅をするようになって出家する人もいます。坐禅への一つの入り口になっています。これがグリーンガルチの坐禅堂の内部になりますが、このように単が設けられて坐れるようになっています。これは日曜日に行われている坐禅会の様子ですが、毎週日曜日には坐禅と法話が行われています。これはコロナ前の様子ですが、多い時で200人くらいが坐禅と法話を聴きにきて、単だけでは座りきれないので椅子が並べられて法話を聴けるようにしています。休憩時にはグリーンガルチで作られた野菜などを売っていますが、これを求めて来る方もいらっしゃいます。これはゲストハウスという宿泊施設です。外部の方が泊まれるようになっていて、例えば会社の研修会や弁護士のワークショップなどが行われていたりしています。そのようなときの宿泊に使われて、室内はこのようにベッドと机と椅子と置かれています。トイレとシャワーは共用になります。1人もしくは2人が泊まれる部屋が確か10室ほどあったかと思えます。

では禅センターの1日はどのような差定で過ごしているというのかをみていきます。資料の4ページ目にスケジュールの一例というのがありますけれども、ここに書かれているのを訳したのになります。制中の期間、解間の時など時期によって違いますが、この時のスケジュールをみていきます。4時45分に起きて5時20分から坐禅をします。6時20分から朝課で6時50分に掃除をして7時10分から朝食。その後は自分で勉強する時間が設けられています。1日1回グリーンガルチにいる全員が集まってワークミーティングというのをを行います。連絡事項を伝えたりとか人の出入りがあったりするので、この人はどこどこに移動しますとか新しく入った人は自己紹介をします。午前中畑などでの作務おこない昼食、そして午後も作務、夕食、晚課、坐禅、消灯というスケジュールですが、基本的には僧堂で行われている行持と同じようになっています。ここで日本の僧堂と違うところは、出家の人も在家の人も、性別も関係なく一緒に修行しているというのが大きな特色です。僧堂と同じようなグリーンガルチの清規があって、ルールにのっとって修行生活を行うという点では永平寺、總持寺といった本山僧堂やほかの認可専門僧堂で行われているのと同じようなことが行われているとお考えいただければと思います。例えばそこで読んでいるお経が英語だったりしますが、基本的に行じるという点では大きな違いはないと思っています。禅センターでどのような食事をしているのかと聞かれることがあるので紹介したいと思います。朝はお粥のなものが用意されます。これはオートミールですが、それにアップルソースとアーモンドになります。これがカッテージチーズと豆乳のクリームです。どちらかという甘い感じの朝食になります。甘い系としょっぱい系を交互に出していると聞いたことがあります。お粥だけではなくオートミールやそばの実を使ったりと、様々な穀類を使ったお粥のようなものが朝食に出されています。昼食で見られるのが、パンとサラダとスープです。これがグリーンガルチブレッドといって、グリーンガルチで焼かれているパン、そして畑でとれた野菜を使ったサラダと、ひよこ豆とほうれん草とマッシュルームのスープです。このように焼かれたパンが置かれて自分が食べられる量を

切っていただきます。ここでは乳製品は基本的に使われているのでコーヒーに牛乳を入れたり、バターなどは使われています。このメニューにはどのようなものが入っているかが書かれています。例えばドレッシングなどにガーリック、にんにくが使われていますよとか、乳製品やグルテンフリーですなど細かく書かれています。これはサラダですが、先程見ていただいたサラダはドレッシングを混ぜた状態で出されていましたが、人によっては食べることができない食材があったりするので、混ぜる前の状態で用意をしたデイスコンストラクティッドサラダというものが、自分が食べられるサラダを用意することができます。ほかにはアレルギーに対応しているそういう人のためのスープも別に用意があったり、カリフォルニア米のごはんが出されたりもしていますが、これは「国産米」というお米です。最初のころに紹介しました生田見壽という人がいて、カリフォルニア米のパイオニアといわれている人ですが、このような禅センターでカリフォルニア米がいただけるのだなと思ったりもしました。

では、そろそろ時間になってきましたので、最後に動画を一つご覧いただきたいと思います。「ZEN is」という動画ですが、ハワイ、北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパで活動している参禅者や僧侶の人たちに、その人たちが考える禅とはどういうものかについて、一言で言い表してもらったものになります。ではご覧ください。

*動画視聴

「ZEN is」をご覧いただきました。

たくさんの方が禅について一言ずつ語っていましたが、皆さんは「禅で何ですか?」と聞かれたとき、どのように答えるか、そのようなことも考えていただければと思います。「ZEN」というのがひとつのキーワードになるのですが、「ZEN」という名前が付く商品だったりとか、これと言うと左側ですね、化粧品もあつたりもします。「ZEN」というのが世界の日本以外のところで、例えば「平和な」とかです、調和的なとか「ゆったりした」とかです、色々な意味で使われていたりします。仏教的な要素というのは切り離されているといわれたりもしますが、外国の「ZEN」ですね、ローマ字での「ZEN」と日本の「禅」が別のものだと考える人もいるかもしれません。しかしですね、ローマ字で書かれている「ZEN」というのも、漢字で書く「禅」というのも、これまで見てきたように、歴史的にいえばつながっていると言えると思います。そして、日本からそれぞれの国にいて、またいろんな文化ですとか、習慣、そういうようなものを栄養として取り入れて、それぞれの国、地域で豊かになっていった、そういうものではないかと思っています。そしてインドから中国、日本と伝わり、そしてハワイ、南アメリカ、北アメリカとヨーロッパと、様々な形になりながら広がっていくというのを今日のお話から感じ取っていただければ幸いです。いろんな禅の形がありますけれども、坐禅はそれぞれの言葉が違って、一緒に行じることができることだと思えます。坐禅だけではなく、食事や作務なども一緒にできることだと思えます。もしこれからなにかの機会に、例えば海外の禅センターに行くことになったとしても、ここで経験していることは海外の禅センターにもそのまま通じる共通のものだと思っています。細かいところは違ったりするかもしれませんが、基本的なところというのは大きく変わらないと思っています。海外へ行ってみたいという気持ちがあったり、送迎してから少し禅センターに行ってみたいということがありましたら、海外には先ほど紹介しました総監部や国際センターの機関があります。そちらの人たちがお手伝いをしてくれますので、そういう縁を辿って是非海外の禅センターやお寺を訪れていただければと思います。少し長くなってしまい、また雑駁な内容となってしまいましたが、これで私の本日の講義を終了したいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(事務局より:本稿は2025年6月30日に大本山永平寺で行われたワークショップの録音をもとに趣意を損ねることないよう編集し、発表者に了承を得たものです。)

※ワークショップ中に視聴した動画は曹洞宗において作成されたもので、インターネットにてどなたでも視聴できますのでどうぞご覧ください。

「ZEN is」動画QRコード▶



参加者アンケート内容 (抜粋)

大本山總持寺

(安居年数/出身地/講演を聴講して感じたこと)

(1)一年目 岐阜県

今回の講演を聞いて、自分の師僧も世界布教のような活動をしており、様々な話を聞きますが、より具体的な数字や写真、資料を拝見できて興味を持ちました。世界のお坊さんは仏道をかなり信仰していますが、日本に居る我々は「資格が…」等と本質的でないところに重きを置いているなと感じました。今回の講演を機に世界の仏教についてももう少し調べてみたいと思います。

(2)一年目 兵庫県

曹洞宗に関係のある寺院が海外にこんなに沢山あるとは思っていませんでした。人口減少や若者の宗教離れによって国内の檀信徒の数が減ってきている今、海外布教活動の重要性を身に染みて感じます。外国の方にも仏教、曹洞宗について伝えることができるように今は目の前の修業に精進したいと思います。

(3)一年目 秋田県

日本の修行僧は安居を通して教師資格を得ることが目的になっている部分が少なからずあると思う。しかし海外寺院で安居される方はただひたすらに修行を追求することが大きな目的の一つに感じた。元々海外布教には興味があったので今回の講演はとて有意義なものになった。ご縁があれば海外の禅文化に直接触れてみたいと思った。

(4)一年目 神奈川県

私は今回の講演を通じて、禅の魅力が自分も思っているよりも大きいものであると気づくことができました。アメリカにおいて人口の1.1%が禅を信仰していること、その割合も増加傾向にあるという統計を見て、禅の持つ力を再確認することができ、海外で禅が広がりをみせている要因を分析し、日本での布教でも活かしていくことが重要だと感じました。

(5)一年目 埼玉県

海外の曹洞宗の歴史を知り、海外での活動にも興味を持ちました。禅(ZEN)という言葉が世界共通のワードとして親しまれ人々に理解されていることを。改めて知り理解し自分のここで修行をさらにしっかりと行っていこうと思いました。

(6)一年目 山形県

私は講演を聴講して感じたことは、こんなにも曹洞宗が広まっていることを初めて知ることができました。私の家では、海外からホームステイを受け入れており、坐禅体験や日本での生活体験を中心に交流していました。私が思うことはやはり曹洞宗も日本だけの考えだけではなく海外の考えを取り入れながら布教活動を私なりに活動して行きたいと考えているところがあります。

(7)一年目 東京都

坐禅のワークショップは以前から興味はありました。自分が禅の宗派の修行をしていることを話題に出すと、みんな「坐禅してみたい」「写経したい」「体験してみたい」など、好印象の人が多かったように思います。いつか師寮寺で沢山の人の体験できる機会を作りたいと思っています。また、師寮寺がある新潟県長岡市はドイツとの友好関係都市でもありまして何度かお寺にドイツから来て頂いたり、僧侶がドイツに行ったりと海外活動もしておりますので自分もさらに活動を広げて行けたらと思います。

(8)一年目 北海道

曹洞宗は日本にしか広まっていない宗派だと自分は思っていました。ですが今回の講演を受講して海外にも曹洞宗の禅が広まって信仰されていることを学びました。ヨーロッパや北アメリカなど数多くの外国が国際布教に携わっており、中でも日系寺院と呼ばれる場所では日本でも行う行事をしており海外にも曹洞宗が広まっていることに驚きました。

(9)一年目 秋田県

海外に建立された寺院はもちろん日系人や信仰している方の居場所として有るのが良いと思うが、禅センターという寺院とは違って教えの禅のみをピックアップして禅を広め坐禅の知名度を一気に世界に広めたものだと感じました。また、海外では禅はマインドフルネスや心地よくなるため等、親しみやすく楽しいものと感じる人がビデオを見て多そうだと感じた。日本では海外に比べても賑わって緊張感があるのが坐禅と考えたのでそこで海外と日本の捉え方がどう違うのか興味があった。

(10)一年目 愛知県

曹洞宗の海外での布教活動が自分の知らない間にとても広まっていることを知りました。現在では日本の曹洞宗には後継ぎ問題や修行僧の減少など問題が山積みになっているので国際布教活動を通して少しでも問題が解決できたら効果的だと思います。外国でも資格がとれるようになったらさらに布教活動が広まると考えられます。

(11)一年目 神奈川県

今回の講演を聞いて、海外の布教活動に興味を持つことができました。日本で僧侶を志す人は、大抵が寺で育ち幼少期から教育されている人がほとんどで、まずは資格を取ることに重点を置いている人が多く感じますが、海外の人々は、禅とは何かという風に哲学の様に捉えている人が多い様に感じました。私もグローバルな社会で布教できるように考えを改めて今後の修行生活を過ごしていきたいと思えます。

(12)一年目 愛知県

修行は辛いことで耐える時間であると思えば本山に安居しに来ましたが、海外では修行について自分の意思でしたいと思っている人がたくさんいることが分かり、人生においてこの本山の修業は辛い時間であると感じることができました。今回の講習も貴重な時間でありました。

(13)三年目 長野県

曹洞宗の国際布教の歴史が移民と共にあったことは知っていましたが、詳しくご説明いただけて、現地にて日本を想った方々がいかに拠り所として宗教や寺院、僧侶を求めているかがわかりました。また、現在世界中に教えが広がっているけれど、その大部分は禅文化による所が大きいのではないかと感じました。宗教や信仰としての曹洞宗が広がって浸透していくには、再度、現代ならではのアプローチで伝え直しが重要だと思います。

(14)五年目 山形県

海外における布教の背景には、多くの困難が存在したことがわかりました。言葉も生活様式も異なる海外で布教されてきた方々の想い、姿を思慮し、海外における布教に関して絶えぬ工夫と努力を続けていくことが、祖師方の教えを未来に伝えていく私たちの責務だと思いました。

大本山永平寺

(安居年数/出身地/講演を聴講して感じたこと)

(15)一年目 長野県

宗教に特定のものが無い割合が29%は多く感じ。仏教の信者が1.1%は少ないと感じた。私にとっての禅は縁起です。まだすべてを善縁と捉えることはできませんが私も努力致します。

(16)一年目 山形県

最近まで兄もサンフランシスコの禅センターで布教活動をしていて、今回詳しく海外での活動を知ることができてよかった。意外にもヨーロッパで仏教に関心がある人が多く、世界中の人々が仏教を求めているのだからである。特に「ZEN is」の問いに対する海外の方の意見は自分の禅をも見つめ直す機会となった。より国際布教に興味を持ったので、しっかりと修行に打ち込んでいきたいと思った。

(17)一年目 愛知県

世界には思っていた以上に禅が広がっているのだと知った。画像を見て海外の人がお釈迦様をつけている姿を見ても、海外でも仏教が伝わっていることは想像しておらず、改めて認識が変わった。禅センターの一つとしてグリーンガルチファーム龍窟寺を見ましたが、日系寺院と違い雰囲気や違って、農場の勉強と並行して禅の修行を学びに来ている人もいて、楽しそうだと感じた。禅というのは、世界から見ると救われている人がいること、大切な宗教の一つなんだと感じた。

(18)一年目 愛知県

仏教を広める活動は改めて難しく感じた。布教を目的としている訳ではないと思うが、今、無宗教派になった人、他宗派の人がたまたま仏教に興味が出ると思えなかった。しかし、在籍僧侶、サポートメンバーの人たちを見て幸せ、楽しみを見つけたようであった。海外の寺院の行事、ご飯などこちらとは違うが、楽しそうもの、美味しそうものであった。こちらとは違うが、同じ修行をしているのだと感じた。仏教を広めるのは難しいと思うが、この活動を知ってもらいたいので、興味を持ってやってみたいと感じるのは講演を通して感じた。

(19)一年目 鳥取県

以前、布教係の配役を頂いており、参拝者の対応をしていたが、外国の人も多いと感じていた。そして、今回の講演を聞き、仏教、禅が海外で注目されているということに納得した。特定の宗教に属している人が少なくなっている現在、これまでになかった文化に触れるというのはとても新鮮なことなのだと思う。仏教や曹洞宗がこのように世界的に広まるといことが私たちにとってとても重要な事だと講演を通して感じた。

(20)一年目 神奈川県

私は始めに海外寺院の建築様式に関心を引かれた。日本に仏教がもたらされた際には、仏教と共に建築様式も招来さ

れ、寺院は仏教式で建立されたのに対し、映像や写真を見る限り、海外寺院の建築様式は、耶蘇教やその他の様式といった多種多様な形態が見られた。ある意味では仏教や禅の流動性を示すとともに、ある意味では、民俗による外来宗教の需要の違いを示唆しているように感じた。このことは仏教、禅の特質、並びに各民俗の宗教性を解き明かすことにつながる、共に曹洞宗の海外布教の前進につながるものと私は考えている。

(21)一年目 静岡県

今回の講演を参加し、講演で見た「ZEN is」の動画を見せて頂き、海外での仏教に対してのイメージが違い海外の方の仏教のイメージは自由で自分を解放して見つける所であると思えました。日本人の仏教のイメージは修行をして行く所であり、ある程度厳しい所であるイメージではないかと思われれます。私も今回の講演を見るまでは厳しい所と考えておりましたが、「ZEN is」を見てこの仏教に対して見方を改めて修行をするのもまた大切なことなのかなと思いました。

(22)一年目 岩手県

永平寺で安居をしていると、禅の思想はもちろんですが、僧堂である為、威儀、進退の面を重要視してしまいます。大切な事ではありますが、一般の檀信徒の方の視点から、禅はどのように見えているのか、どういった禅の素晴らしさを感じていらっしゃるのか分かりませんでした。今回、「布教」という国際規模の講演を聴かせて頂き、新たな一面、世界の仏教に対する思いを感じる事ができました。日常生活すべてが禅である事、永平寺での修行に区切りをつけて自坊に戻ってからでも新たな修行、布教という道がある事を楽しみ、日々永平寺での修行に精進して参ります。

(23)一年目 愛知県

国際布教使の存在は知ってはいましたが、具体的にどのような活動をしているか歴史は知らなかったのと興味を湧かしました。

(24)一年目 京都府

禅の布教等の活動が世界でも行われている歴史にとっても驚きました。禅文化に関心が高まっている昨今、1900年代頃からの活動がこうであるからこそなののだと感じました。最後のビデオ「ZEN is」で「禅は私の人生です」とおっしゃっていた方や、心の支えとしていらっしゃる方が多くいて、情報化が進む今の時代、その未来で「禅」を必要とする人が世界中で増えてくると同時に、曹洞宗の僧侶としての使命は大きいものであると感じました。一人でも多くの方が心を安心して生きていけるように、まずは自分自身の問題を解決して禅を深く理解、体得するため一層修行に努めます。貴重なお時間ありがとうございました。

(25)一年目 大阪府

日本とは違った環境で日本で行われてきたことが海外にも広がっていて、そこにいたるまでの国際布教の活動を知り、このような人々のおかげで日本の文化が広がっているのだと思いました。さらにアメリカなど様々な文化や宗教がある中で仏教が受け入れて来ているのだなと思いました。

(26)一年目 愛媛県

今回の講演を聴講し、先人たちが幾多の困難を乗り越えながらも布教強化に力を注ぎ続け、曹洞宗の教えが世界各地の人々に浸透してきたことを再確認する貴重な機会となった。国際布教をどのように進めていくべきなのか、私たちが雲水に問われているように考える。私たちが雲水に限らず、若い世代が平和や調和を求めて布教の強化に興味を持ってくれることを願う。

(27)一年目 三重県

海外にも寺院があることは知っていましたが詳しいことは知らなかったため、今回の講演で知ることができて興味をわきました。

(28)一年目 山梨県

海外の方が禅に対してポジティブな意見を持っていることに驚きました。修行を楽しんでいるように見えて、私自身も修行を楽しみたいと感じました。また、海外にある寺院に行ってみたく感じました。海外ならではの修行ができるだろうなと感じました。永平寺の安居が終わったら行ってみたいなど感じました。

(29)一年目 東京都

私たちに負けにくい海外の熱が高く、私も負けられないなと思いました。私にとっての「ZEN is」はまだわからないが、修行の中で見つけられたらいいと思う。ならびに英語版の般若心経があることに驚いた。

(30)一年目 岩手県

海外の方々には、宗教を職業と言うよりも生き方として見ているということを感じた。日本はどうしても職業や資格で考えてしまっている気がした。改めて修業について考えさせられる良い時間でした。

(31)一年目 福島県

日本の修業とは大きく異なると思ったが、「ZEN is」を見ると必ずしも同じ内容をなぞることないように感じました。

32一年目 静岡県

父が宗務庁教化部の国際課長だったので、それなりに知っていることも多かったが、より国際布教に関して知見を深めることが出来たと感じる。移民と密接に関わっていたことには驚きを感じました。「ZEN is」の回答にも、日本にない価値観や感性が現れていて、興味深かった。

33一年目 北海道

永平寺に安居してから瑞世で来られる外国人の方が想像よりも多く驚いていたが、今回の講演を通して海外寺院の活動も本格的なものであることを知った。機会があれば海外寺院や禅センターにも行ってみたいと思いました。

34一年目 愛知県

海外の寺院や禅センターの数が想像以上に多くて驚きました。北アメリカで56ヨーロッパで55の数があり。イメージではキリスト教、イスラム教など仏教以外の宗教の信仰が多いと感じていたため、そこに仏教や禅の海外に対する布教活動を感じました。アメリカにおける仏教徒数は全体の1.1%ほどで少ない方ではあるが日本でも所々に教会があるようにそれと同じ感じなのかなと感じました。講演を聴いて海外の仏教と日本の仏教で違うところもあり、とても興味を感じました。

35二年目 広島県

グローバル化が課題である日本において、曹洞宗は昔から海外に目を向け布教をしていた事に驚きました。仏教が土着の宗教ではなく、外様の宗教である海外において言葉の壁を越えて禅を伝えるのは大変な努力があったのではないかと、海外と日本の食文化は明らかに違います。その中で、精進料理を海外に合わせながら道元禪師から伝わる典座の教えから取れない上手いバランスを探り、実践していったのは過去の布教使の方に頭があがけません。その様な努力の中で、海外で独自にでも曹洞宗として発展成長して行った海外寺院に足を運んでみたいと思いました。

36二年目 山形県

こういった講義を聞くと、自分の視野を広げてもらえるので、大変有難く思います。宗門の僧侶としてこのような国際的な布教活動が行われていることを知るべきだと思います。永平寺で安居をしている海外の人を見ない日は無いというくらいには参拝に来られていて、禅への注目度がよくわかります。私も真剣に安居する姿で禅を伝えていこうと思います。

37二年目 愛知県

英訳された経本を聞いたが、きちんとお経の様だった。音訳で訳してあると考えたが意味が通っているのが気になった。日本では尼僧さんは全体の1%に対して、海外では36%であることに驚いた。やはり日本では坊さんに男性のイメージが強いからなのか。海外の寺院でも初詣や七五三が行われたり、南アメリカの慈恩寺では、遺灰文化が根付いた所を見て、感慨深い気持ちになった。

38二年目 静岡県

日本における仏教とハワイ、南アメリカでの仏教の間に価値観の違いはあるのだろうか？日本と外国とは宗教の捉え方、日本(例 仏教 教えに沿って生きる事で苦しみからの脱出を試みる)、外国(キリスト教、ヒンドゥー教、イスラム教、絶対的なナニかによる救いを求める)というような違いがあるのに、なぜ受け入れられたのか？

39二年目 島根県

今回の講演で、アメリカやヨーロッパ等の寺院や全センターの歴史や活動を学ぶことができました。アメリカでは仏教徒

が1.1%で29%の無宗教者がいることを知り、この無宗教者をどのように教化していくのかで数字が大きく変動する可能性があると感じました。海外の活動に興味があるので、まずは英語の勉強から始めようと思いました。

40二年目 宮城県

北米の寺院には日系寺院と禅センターの2種に分けることができ、日系寺院は葬儀や年分行事など日本人のための場所、禅センターは禅に興味を示すアメリカ人のための場所と大まかに分別できると感じた。同じ国際布教という面から言えば、南米は日系寺院、ヨーロッパは禅センターの毛色があると感じた。家系として仏教に親しむのか、個人の思想の中で仏教と触れ合うのかでは見方、理解のしかた、求め方に大きな違いがあるのではないかと考えた。

41二年目 東京都

国際布教の歴史を知る中で、第二次世界大戦を経験しながらも、布教活動が途切れることなく続いていった事実は今日の国際布教の広がりを鑑みるに奇跡のような出来事だったのだと感じました。「ZEN is」の映像を見て、インタビューに答える人々が良い意味で宗教的では無いと感じました。仏だ、經典だ、仏法だという答えではなく、「生活」「私」「世界、環境」等、日々の生活に根ざした「ZEN」の実感を語っていたことがとても印象に残りました。

42二年目 秋田県

今回の講演を聞いて、世界で禅はどのように捉えられているのか理解することができました。また、移民の為に布教した地域やその地域へ布教するために行った所など様々あり曹洞宗が世界へ行ってきた活動の理解をすることができました。自分も今は永平寺で修行していますが降りてからは日本だけでなく世界にも目を向けてみたいと思えるきっかけになったと思います。

43二年目 宮城県

世界には様々な僧堂があり、日本とは異なる点があるので実際に行ってみたいと感じました。また、「禅とは」という問いに対して色々な考えを持っている人がいて、勉強になりました。私ももっと前向きな気持ちで禅に向き合っていこうと思います。

44二年目 北海道

印度から中国、日本へと仏教が伝わり禅は日本独自の仏教の概念で印度、中国が禅への導入は考えられるがヨーロッパ、米国までも体験している。禅は世界に強く影響を与えていることが改めて素晴らしいと感じた。

45三年目 長野県

日本から海外への移民の歴史と曹洞宗の海外布教の始まりが結びついて話がかが印象的だった。

46三年目 静岡県

自分が知っているより古くから海外での布教が行われていて驚いた。当時の社会的状況によって思うように活動出来ないこともあったが、今まで布教を続けていた方々のおかげで現在海外でも布教活動を出来ていることを考えると、非常に有難いと感じた。また、海外の僧侶の男女比において女性の割合がかなり高く、日本では考えられないことなので、文化の違いによる海外布教の可能性を感じた。

47三年目 長崎県

各国の国際布教の歴史、海外寺院の活動の詳細がよく理解できた。現在海外寺院に関わる日系人、現地の人々の考えや、曹洞宗や仏教を信仰する理由をもっと深く知りたいと感じた。

じた。

48三年目 東京都

歴代老師が海外に渡り、仏道の歩み道、禅の悟りを世に宣伝し、協会や禅センターを建設し、人材育成、文化活動、坐禅等を中心として発展したことに実感しました。また仏道、禅と出会うことで住民の方々が誤った方向から正しい方向へと向かう決意を感じました。今生きているこの時間を大切にして自分の出来ることを表にする。つながりや出会いがあることで人生が変わるという表現が伝わりました。

49四年目 秋田県

大学在学中に何度か海外に行く機会が有って、国際関係には大変興味があるので、とても貴重な機会だった。実際に他国に行った時も思ったことだが、同じ宗教、宗派であっても一つとして同じ形をしていないことが興味深い点だと思う。加えて、他国の曹洞宗に携わる人々の熱心さが伝わってきた。形は違えど人のそれぞれのアプローチで禅と共に生きている。今後宗教者の一人として進む自分にとって、考えさせられる良い機会だった。教化研修所の進路も考えているので、そこでも活かせるよう日々努めてまいりたい。

50四年目 埼玉県

国際布教とは、曹洞宗内においてどのような意味を持った活動なのか良くわかる講演でした。インドで始まった仏教が中国を通じ日本へ伝わってそこから世界各国へと広がっている様に。仏様の悟られた心理の奥深さを感じると共に、諸外国における仏教の形、受け止められ方に興味も出た。海外の清規も学んでみたい。布教部にて海外からの参禅者と交流していた時も思っていたが、禅に対する関心が海外では高まっている様に感じる。海外布教によって日本では持てないような新しい仏教の捉え方に触れる事で仏教を多角的に見れるのではないかと感じた。海外の方の視点でみた「ZEN」の動画を見て特にそれを強く感じた。

51四年目 新潟県

国際布教の歴史から現在海外の寺院でどれだけの人が活動に関わっているかを具体的に知る良い機会となった。同じ曹洞宗の寺院であっても、海外の各寺院で成り立ちや地域社会とのつながり方が様々でそれぞれに特色や背景があり興味深かった。海外布教から、今現在の曹洞宗の布教の在り方について考えていきたい。

52四年目 愛媛県

元は移民のための開教師であったが現地の人にも受け入れられ今日に至っていることを知れた。長年海外で布教されてきた中で文化の違いによる困ったことや難しかったことを聞けたらよかった。

53六年目 山形県

海外研修に行かせて頂いた禅センターや寺院の話をお聞きすることが改めて素晴らしい経験をさせていただけたと実感が湧きました。今後、アメリカの「ZEN」がどのように日本の手から離れていくのか、あるいは日本の曹洞宗の一部として活動していくのか仏教の大きな歴史を見ている様でした。

動静報告 2025年(令和7年)1月~12月

1月18日	会報海外分・総会案内発送作業	事務局
2月7日	役員会	檀信徒会館 梅の間
2月13日	定例総会・懇親会	檀信徒会館 桜の間
4月3日	役員会	檀信徒会館 梅の間
5月17日	会報短信編集・発送作業	事務局
6月28日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山總持寺
6月30日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山永平寺
7月17日	役員会	檀信徒会館 梅の間
10月22日~28日	ハワイ・北アメリカ檀信徒大会	両大本山ハワイ別院正法寺
11~12月	会報編集	事務局
12月4日	編集会議・役員会	檀信徒会館 梅の間

外国籍僧侶
法衣支援事業
寄付者御芳名(敬称略)

千葉県 永興寺
株式会社 美濃角

会員皆様におかれましては、多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも本事業にご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

SZ/express

2025年度 会費納入者・賛助金納入者名簿

ありがとうございます。
大切にさせていただきます。
(敬称略)

■助成金

曹洞宗宗務庁
大本山永平寺
大本山總持寺

■会費納入者ご芳名

北海道 薬王寺 田中清元
北海道 定光寺 大道光肇
北海道 大雄寺 奥村孝禪
北海道 長福寺 長尾龍心
青森県 大乘寺
岩手県 祇陀寺
宮城県 國分尼寺
宮城県 松源寺 東海泰典
宮城県 円満寺 館寺規弘
宮城県 輪王寺
宮城県 宗禪寺 岩井秀弘
宮城県 秀林寺 計良弘信
宮城県 功岳寺 関弘爾
宮城県 峰仙寺
宮城県 壽徳寺
宮城県 洞林寺
宮城県 大雄寺 小島孝尋
秋田県 松庵寺
秋田県 乗福寺 中泉俊亮
秋田県 東泉寺 佐藤一應
秋田県 天龍寺 八島國雄
秋田県 満福寺
秋田県 満友寺
秋田県 永泉寺 寿松木宏毅
秋田県 月宗寺
秋田県 歓喜寺 堀口良允
山形県 山形県第3宗務所
山形県 洞松寺 小野卓也
山形県 清龍寺 大山健治
山形県 慶松寺
山形県 龍蔵寺 小野田貴純
山形県 宝泉寺 采川道昭
福島県 長泉寺 石月聰明
福島県 昌建寺 秋 央文
福島県 円通寺 吉岡棟憲
福島県 常円寺
福島県 石雲寺 葉貫成悟
福島県 天徳寺 細川正善
福島県 佛母寺 小野俊憲
茨城県 龍泉院
茨城県 鏡徳寺 大野徹史
栃木県 高德寺
群馬県 仁叟寺 渡辺啓司
群馬県 龍源寺 渡辺龍道
群馬県 宗泉寺 柴山輝行

群馬県 雲門寺
群馬県 昌雲寺
群馬県 神守寺
群馬県 長楽寺 峯岸正典
埼玉県 建福寺 安野正樹
埼玉県 昌福寺 荒井裕明
埼玉県 寶持寺 馬場知行
埼玉県 東榮寺 大森篤史
埼玉県 長青寺 引間維一
埼玉県 円通寺
埼玉県 東昌寺 長谷川昌光
千葉県 満蔵寺 森田英仁
千葉県 長泉寺 フェルナンド清賢
千葉県 宗胤寺 児玉重夫
千葉県 新井寺 松井量孝
千葉県 観音寺 安本正道
千葉県 真光寺
千葉県 永興寺 高木正尊
千葉県 大龍寺 石井清純
東京都 宗清寺 太田賢孝
東京都 龍澤寺 関岡俊二
東京都 江岸寺 来馬宗憲
東京都 俊朝寺
東京都 静勝寺 高崎忠道
東京都 随流院 大場満洋
神奈川県 随流院 西村健伸
神奈川県 傳心寺 大沢憲明
神奈川県 永明寺 石田征史
神奈川県 龍寶寺
神奈川県 東泉寺 枋堀真英
神奈川県 浄心寺 館盛寛行
神奈川県 梅宗寺
神奈川県 岩泉寺
神奈川県 吉祥院 尖廣伸
神奈川県 最乗寺 増田友厚
神奈川県 東照寺 程木昭徳
神奈川県 倫勝寺 馬場義実
神奈川県 善光寺 黒田博志
神奈川県 正翁寺 篁 保雄
新潟県 雲洞庵 乙川良介
新潟県 養廣寺 佐藤鴻舟
富山県 明禅寺 山本健善
長野県 正麟寺
長野県 桃源院 小笠原隆元
長野県 興龍寺 黒柳博仁
長野県 廣澤寺 小島現由
長野県 天周院
岐阜県 長國寺
静岡県 元長寺
静岡県 永明寺 加藤孝正
静岡県 洗耳寺 長田敬道
静岡県 洞雲寺 糸柳格順
静岡県 高林寺 猪俣典孝
静岡県 冷泉寺 佐野和成
静岡県 新豊院 水野克彦
静岡県 増善寺 黒澤慈典

静岡県 重林寺
静岡県 医王寺
静岡県 林叟院
静岡県 地蔵寺
愛知県 寶泉寺
愛知県 神藏寺
愛知県 西光寺
愛知県 天徳寺
愛知県 慈光院
愛知県 長松院
愛知県 妙巖寺
愛知県 龍潭寺
愛知県 宝珠寺
愛知県 大光院
三重県 廣禅寺
京都府 地運寺
京都府 宗仙寺
大阪府 吉祥院
兵庫県 全昌寺
鳥取県 大岳院
鳥取県 天徳寺
鳥根県 松源寺
広島県 聖光寺
広島県 禅昌寺
愛媛県 法龍寺
高知県 願成寺
長崎県 皓臺寺
長崎県 妙本寺

■賛助金納入者ご芳名

北海道 薬王寺 田中清元
北海道 定光寺 大道光肇
北海道 大雄寺 奥村孝禪
青森県 大乘寺
岩手県 祇陀寺
宮城県 松源寺 東海泰典
宮城県 円満寺 館寺規弘
宮城県 宗禪寺 岩井秀弘
宮城県 秀林寺 計良弘信
宮城県 功岳寺 関 弘爾
宮城県 峰仙寺
宮城県 壽徳寺
宮城県 大雄寺 小島孝尋
秋田県 松庵寺
秋田県 東泉寺 佐藤一應
秋田県 天龍寺 八島國雄
秋田県 満福寺
秋田県 満友寺
秋田県 月宗寺
秋田県 歓喜寺 堀口良允
山形県 清龍寺 大山健治
山形県 慶松寺
山形県 龍蔵寺 小野田貴純
山形県 宝泉寺 采川道昭
福島県 長泉寺 石月聰明
福島県 昌建寺 秋 央文
福島県 円通寺 吉岡棟憲
福島県 常円寺
福島県 石雲寺 葉貫成悟
福島県 天徳寺 細川正善
福島県 佛母寺 小野俊憲
茨城県 龍泉院
茨城県 鏡徳寺 大野徹史
栃木県 高德寺
群馬県 仁叟寺 渡辺啓司
群馬県 龍源寺 渡辺龍道
群馬県 宗泉寺 柴山輝行

群馬県 神守寺
群馬県 長楽寺 峯岸正典
埼玉県 寶持寺 馬場知行
埼玉県 東榮寺 大森篤史
埼玉県 長青寺 引間維一
埼玉県 東昌寺 長谷川昌光
千葉県 宗胤寺 児玉重夫
千葉県 新井寺 松井量孝
千葉県 真光寺
千葉県 永興寺 高木正尊
東京都 大龍寺 太田賢孝
東京都 宗清寺 関岡俊二
東京都 龍澤寺 来馬宗憲
東京都 江岸寺 高崎忠道
東京都 静勝寺 西村健伸
神奈川県 随流院 大沢憲明
神奈川県 傳心寺 大沢憲明
神奈川県 東泉寺
神奈川県 岩泉寺 増田友厚
神奈川県 最乗寺 程木昭徳
神奈川県 倫勝寺 馬場義実
神奈川県 善光寺 黒田博志
神奈川県 雲洞庵
長野県 桃源院 山本健善
長野県 興龍寺
長野県 廣澤寺 小笠原隆元
長野県 天周院 黒柳博仁
岐阜県 長國寺 小島現由
静岡県 元長寺 加藤孝正
静岡県 永明寺 長田敬道
静岡県 洗耳寺 糸柳格順
静岡県 洞雲寺 猪俣典孝
静岡県 高林寺 佐野和成
静岡県 冷泉寺 水野克彦
静岡県 新豊院 黒澤慈典
静岡県 増善寺
静岡県 長松院 篠田一法
静岡県 妙巖寺
静岡県 宝珠寺
京都府 宗仙寺
大阪府 吉祥院 嶽盛和三
兵庫県 全昌寺 越賀道秀
鳥取県 天徳寺
鳥根県 松源寺
愛媛県 法龍寺
高知県 願成寺 伊藤祐司
長崎県 皓臺寺 吉谷大憲
長崎県 妙本寺
大分県 松屋寺 藏山大頭

アメリカ・ロサンゼルス山火事被害支援募金報告

2025年1月7日、アメリカ・ロサンゼルス近郊で発生した山火事の甚大な被害に際し、S Z Iご縁の皆様方におかれましては義援金という形でのご協力をいただき心より感謝申し上げます。

この度、S Z Iロサンゼルス山火事被害支援募金は令和7年12月25日をもちまして受付を終了いたしました。お陰様で合計918,000円(令和7年12月25日現在)の義援金が集まりました。

お寄せいただいたご寄付は、北アメリカ国際布教総監部に寄託し山火事により被災された宗門寺院関係者の皆様への生活再建支援などに使用させていただきます。

皆様からの温かいご支援を賜りましたこと、本当にありがとうございました。

アメリカ・ロサンゼルス山火事被害支援募金寄付者ご芳名(敬称略)

北海道	定光寺	大道光肇	福島県	常円寺		長野県	天周院	黒柳博仁
北海道	長福寺	長尾龍心	福島県	長泉寺	石月聰明	静岡県	元長寺	
青森県	大乘寺		福島県	洞雲寺		静岡県	可睡斎	采川道昭
岩手県	宝積寺	田村優子	茨城県	龍泉院	北條正興	静岡県	林叟院	鈴木包一
宮城県	松源寺	東海泰典	群馬県	祥雲寺		静岡県	重林寺	
宮城県	輪王寺		群馬県	建明寺	堪山泰賢	愛知県	宝珠寺	
宮城県	峰仙寺		群馬県	長楽寺	峯岸正典	愛知県	神龍寺	
宮城県	国分尼寺		群馬県	神守寺		愛知県	神藏寺	
宮城県	皆伝寺	天野宏雄	埼玉県	松林寺		愛知県	西光寺	小原智司
宮城県	宗禅寺	岩井秀弘	千葉県	真光寺		愛知県	一心寺	渡辺亮正
宮城県	円満寺	館寺規弘	東京都	萬福寺	垣内弘道	京都府	苗秀寺	大谷俊定
秋田県	月宗寺		東京都		宮城温子	京都府	地雲寺	松本宣雄
秋田県	長慶寺	深川典雄	神奈川県	最乗寺	増田友厚	大阪府	吉祥院	嶽盛和三
秋田県	乗福寺	中泉俊堯	神奈川県	倫勝寺		広島県	禅昌寺	横山泰賢
山形県	清龍寺	大山健治	神奈川県	善光寺	黒田博志	山口県	華嚴寺	磯部誠司
山形県	見龍寺		新潟県	雲洞庵		鳥取県	正福寺	永井雄大
福島県	天徳寺		新潟県	養廣寺	乙川良介	高知県	願成寺	伊藤祐司



2025年 S Z I 定例総会・講演会 於：檀信徒会館

第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会

(2025年10月22日～28日 於：曹洞宗両大本山布哇別院正法寺)



CONTENTS

▶ 巻頭	ご挨拶	ハワイ国際布教総監部 国際布教総監 駒形 宗二	1
▶ 特集	第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会		
	①檀信徒大会ツアー報告	S Z I 会計 伊藤 祐司	3
	②第10回ハワイ・北アメリカ檀信徒大会に参加して	愛知県名古屋市 長松院寺族 篠田 幸子	4
	③ハワイで生きる仏教	宮城県気仙沼市 満福寺副住職 菊地 志門	5
▶ 特集	両大本山ワークショップ・講演会抄録		
	曹洞宗国際布教の歴史と海外寺院の活動	S Z I 副会長 南原 一貴	6
	両大本山ワークショップアンケート報告		12
▶	法衣支援事業寄付者名簿／動静報告		13
▶	SZ I express 会費納入者・賛助金納入者名簿		14
▶	アメリカ・ロサンゼルス山火事被害支援募金報告		15